

宿泊防災訓練

昨年度から全ての都立高校で実施されることになった宿泊防災訓練。今年も都立両国高校では高校 1 年生が 7 月 19 日(金)～20 日(土)にかけて一泊二日で訓練に参加しました。

昨年度とは趣向が変わり、今年度は二人の先生から、災害から身を守る能力と助け合いの精神や防災に関する意識に関する講話がありました。

■昭和 20 年 3 月 10 日の東京大空襲の時に実際に両国高校にいらして一命をとりとめた卒業生の佐藤正昭氏の貴重な体験談

■地学の南島先生より、地震や津波といった自然災害にどのように向き合っていくかについてのお話

～当日の様子～

★東京大空襲と校舎焼失 17 時～ 於:視聴覚室

卒業生の佐藤正昭さんより、昭和 20 年 3 月 10 日の東京大空襲の体験談のお話がありました。

当時、最高学年の 3 年生が 10 人ずつで「防衛隊」を務め、毎夜交代しながら学校に泊まっていたそうです。

3 月 10 日は佐藤さんの班の当番日でした。北西で風速 30m の強風が吹き荒れている悪天候に加え、大量の焼夷弾が降る中、どのようにして逃げ延びたのかという事を、校舎や建物の配置図を示しながら具体的に説明があり、当日の様子が手に取るようにわかりました。

それぞれの生徒が、なんとしても学校周囲の火災から校舎を守らなければという決意を念頭に、自ら考えて行動に移していたそうです。

このような緊急時にも冷静に対処し、無事生き延びた生徒たちの精神力に脱帽の思いでした。自分たちとほとんどかわらない年頃に先輩たちがした経験や勇気ある行動に、現両国高校 1 年生も何かを掴んでくれたにちがいません。



★母なる大地の手の上で 18 時～ 於:視聴覚室

続いて、本校の地学の先生であります、南島先生より「母なる大地の手の上で～科学のセンスで想像力を磨く減災への一歩」というトピックでお話がありました。

2011 年の東日本大震災、2004 年の中越地震、1995 年の阪神・淡路大震災の写真のスライドに写しながら、ご自身の体験を基に災害との付き合い方についてお話がありました。

「自然災害はいつ何時くるかわからない。常にあなたのそばにいる！だからこそ、日々意識して過ごす事が大切である！」また、「科学は自然の中に生きる人間の知恵だ。知恵を使うか使わないかはあなた次第だ。自然の恵みに感謝して、それがもたらす災害には科学的な態度をもって備えよう！」というお話があり、科学に基づいた危険予測の重要性への認識を新たにしました。



★宿泊訓練の準備

19時に先生方のお話が終わり、ここからが第二部宿泊訓練の準備です。

生徒は4班に分かれ、それぞれの役割が当てられました。

1班 調理班 夕食のアルファ米の調理+配膳

2班 毛布班 毛布を5階からどんどん落として、それを女子が寝る2階と男子が寝る5階に運ぶ。

3班 段ボール班 段ボールをリサイクルの倉庫から運び出して、女子と男子それぞれが寝る階に運ぶ。

4班 片付け班 視聴覚室を元通りにする+翌朝のアルファ米の調理+配膳

■外に出してあった机を視聴覚室に戻して元通りに戻す、4班の片付け班。



■3班の段ボール班は、資源ゴミ置き場から段ボールを運びだします。



毛布を出した後の空き箱の片付けも積極的にやってくれていました。

■2班の毛布班。毛布を5階から落とすのは力持ちの男子のお仕事！でも、そこから運ぶのは男女関係なく……かなり重労働。

気をつけて～！ 校舎棟とは別棟の東館の5階から毛布の入った段ボールをどんどん下に落としていきます。



階段はさすがにきついでエレベーターを使用。

やっと5階の教室まで来たぜ～。



女子の教室はこの通り、段ボールの上に毛布がきれいに敷き詰められています。



■調理室では1班の調理班が全員分のアルファ米を調理しています。



献立は山菜おこわ。段ボールにビニール袋をセットして、アルファ米をいれます。そこにお湯をザーッと一気に注いで蒸らします。



待つこと20分。山菜おこわのできあがり！
日頃の調理実習の成果か、慣れた手つき(?)
でみんなで仲良く、よそります。ちゃんと全員に行きわたったかな？



さすが自律自修の両国生。作業が済んだクラスでは夕食前に進んで宿題のレポートをする姿も。



さあ、楽しみにしていた夕食タイム！普通の教室で、クラスごとにピクニック気分いただきます！
お味は・・・？「まずまず」とのこと。

食事の後は、南島先生と屋上で天体観測をしました。
翌朝はアルファ米のわかめごはんをいただき、片付けをした後、8時30分に解散しました。